

# 6月の立山周辺

1984年

6月2日~4日

CL 菅沼 SL 陶山

古川 童田 加藤 鈴木 矢野

- 6.1 新宿発 23:45 急行 集合 23:00  
6.2 信濃大町よりアルペンルート → 室堂  
→ 大走り → 真砂岳 → 真砂沢 → 剣沢  
→ 剣師前小屋 (泊)  
6.3 小屋 → 雷鳥沢 → 一ノ越 → 東一ノ越  
→ サンボ平 → アルペンルート → 室堂  
→ 室堂乗越 → 並山川 → 馬場島荘  
6.4 小屋 → 魚津 → 帰京

4月8日の巻機下転倒したほくほ右足首右肩をいためたしまった。楽しみにしていた五月連休は、そんなわけ下家に居る羽目になったのです。菅沼さん企画の立山周辺山行は、肩が少々痛がるうとも参加したというわけです。23時45分の急行に乗るにはまだ30分以上も時間があるというのに、雷雨がひどくならないうちにと、女房と子供たちをせかさ家を出た。す下にパラパラ降り出している途中で本降り。駅には雨やどりの連中が「アホな男一人かけ込んでくのを見ている」といった所です。何んの事はない一番ひどい時をねらった家を出た事になったのです。一駅も着かないうちに上がっていき下はありませんか。新宿一番ホームに着いた石垣君がす下にきていた。上野予定の電車に乗れなかったとか。メンバーおそろい頃、島田さんの家族の方が見え、お客さんに事故があったから参加を中止したいとの事。下ガスユンドと

コッヘルとどけにきた。

6月2日大町駅からバスで標高1500メートルの扇沢駅に着く。周遊券を個人記念乗車券に変え荷物代をうかすためにコッヘルはいたりしガッパを小さくまとめた。文明の力とはありかたの下の汗を流さないで2424メートルの室堂ターミナルまで上げてもらう。ターミナルは観光客とスキーヤーであいかわるすの。にぎわいである。初日はカッパが必要なしほどうれしい事はない。皆んな日焼おめをぬるのにいそがしい。9:50出発。みくりが池山荘あたりから真砂岳方向めがけ滑り降りる。新名川と思われる底地10:20。これより別山と真砂岳間の稜線めがけツボ足下登り出す。くぼ地のためか暑い。稜線近くはほんの何メートル着か雪が付いている所はかっぎエテ下す。真砂稜線12:15行動食を取ってたりし出発12:45。菅沼さんが写真を取るため先に真砂岳側に斜滑降下入る。右足元が流れ出したため。ほくほちは別山側からの滑降となった。初日の滑り出しはどうも板に乗りあわないという感じがする。カールはすぐ終りたが剣沢との出合まで約45分の滑降である。何ヶ所か斜度もあり最後出合への滑り込みは一番強かったよう下す。剣沢13:30。小休止してこれより再び小屋まで1000メートルの登り返し下す。元気者の加藤さん鈴木さんに先行してさうい宿泊の予約を依頼する事になった。剣沢は斜度があまりない。下時間がかかりにテバテ下す。明日の池ノ平行どうする。「又、ここ登るの?」「どういや!」なんてバテ組はかっぎな事をホヤキながら先行組のキョウステアにしていたかっぎのです。

11107

7

NO.00103

840711

8

No.00103

小屋 17:40 重田さん持参のワイン下乾杯  
をする。春山シーズンも終りなつか小屋けがう  
かう。毛布もするなだけ使え。

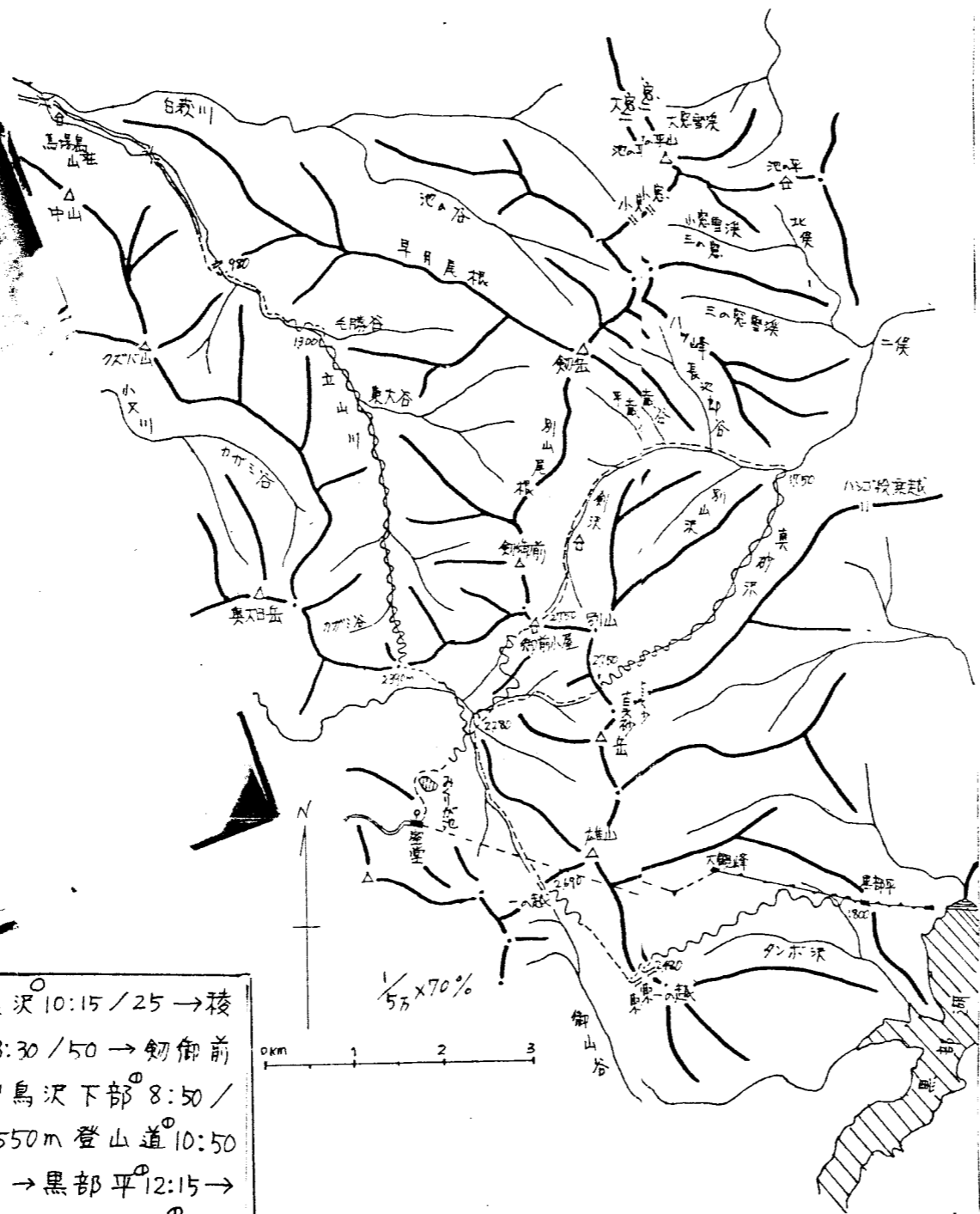
6月3日 朝のうちほうす雲りだが日中は快晴  
朝食後夕べから懸案に悩んでる。今日も行  
動予定をあれこれ出しあつた。重田さんは単  
独下室室業越から立山川經由下一足先に帰宅  
する。池ノ平行は剣沢の登りを考之全員中止  
で一一致した。結論としてタンボ平に行き時向  
があれば馬場島まで降りる事になった。出発は30  
雷鳥沢を室室業越側にトコバスきみに滑る。  
業越への分岐下重田さんとわかれた。少し尾根  
上を滑り中向点より別山側に滑り込んでいく  
陶山さんは明日からひさの不調を訴えていた  
の下すか、ますます全員快調なよう下す。群名川  
一ノ越取り付き地点 8:50 これより下足127  
出発 9:00 真砂岳下部から雄山頂上直下を  
トコバスきみに一ノ越へ。10:30着。前方に東一  
ノ越への夏道が見える。陶山さんは休憩は夏  
道下しよう」とさささ滑っていった。この道は毎  
年早い時期から出るのだから下す。アツクに坂  
をのり小屋止後出発。東一ノ越 11:15 天気  
は最高です。半袖で滑りたのが下すか。これは  
いけません。馬場島への道程を考之ると気が  
急ぎます。11:30 出発。ロープウェイ下見たほど斜  
面は良くなる。斜度は申し分ないの下すか  
縦溝が下すいて滑りにくい。五月連休頃なら  
良かったかもしれません。タンボ平はケレンで  
下言えは初心者コースと同じく下す。ロープ  
ウェイ 12:15 フリー春がある下板の持込料  
400円下すみす。12:40 出発。トコバス 13:00  
ターミナルで水を補給し 13:25 馬場島へ出発

みくりが池山荘あたりから。右手に滑り込み、左  
側ロープ塔のあるケレンデに廻り込む。  
群名川室室業越取り付き点まで滑降し小屋止  
後下足127 14:00 出発。この時の暑さは最  
高下太陽がさしやうこうなつた夏山よりひと  
い奥大目岳側に佐地村の2390メートルのこんも  
りしたピーク 14:30。今回の目的下もあつた  
待望の立山川滑降下村 14:45 開始  
すばらしい斜面下す東一ノ越のような溝はあ  
りません。斜度は「そうすね」芝倉沢の稜線ぐ  
う下す。思ひこつ突込んでいきます。  
入山の目下もあり、板が自然と動いてくれ  
「オモシロい」の何んが最高。陶山サアリーサーが  
どんどんリードしていき詰す。菅沼キーは、ぼくた  
ちを見ながら、しんがり努力しています。  
「あれ」古川さん、どうして坂が遅れがちです。  
こんな、ごまやかな滑降比東大谷まで下。毛勝谷  
からは最悪。雪は部分的に落ち雪どけ水が  
ゴゴ下す雪とって、ど泥と石が乗っていて  
とて滑るところにはありません。この沢を  
渡るには遅すぎた下す。不安定なスノー  
滑り リンゴを付けた液の液のたりし、あの滑り  
始めとは天と地の差です。陶山サアリーサーが  
介候として先へ先へと行きます。菅沼キーが  
指針を出したりします。両側からいつ落石  
がくるかもしれません。下神経を研澄ました  
の行動下す。「橋下橋が見えるぞ」近づくと  
水内とわかる。川ははさんで左側下なければ  
林道に入れなため少し引き返し。一部合穴  
のあつているスノーアツクを渡る。「木山」ほ  
くはロー一部分に左足を踏込もうとして「ま  
青」下す。985メートル。立山川水内 15:30

林道入口 16:45 最初に見え出す登りぎみの  
林道下はなく、その下の方を通りすぎるとすく  
又、林道が出でくる馬場島荘への道、毛勝谷の  
はどうなることかと、皆んな口数も少な  
つたのに林道に入った急におしゃべりにな  
つたようだ。古川さんの笑声下パーティーが和  
む気がした。馬場島荘が見え出した時は皆ん  
な下「ヤッター」とうれしい喚声を上げた。  
馬場島荘 17:30  
休みをほとんど取らなかったため、思ったより  
早く小屋に着いた。判断力のいる最悪な沢の  
状態を重田さんは単独下無事行動できた事に  
対して敬意を表した。ぼくたちは行動しな  
か。あなたの手をそんなに心配したかもしれま  
せん。はつきりしたトレースが見えるなかつた  
か下す。ぼくたちと時向のずれが大きか  
たか下しよう。小屋の伝言板を見て皆んな安心  
しました。小屋の人から山菜取りに来た人の車下帰  
つたと聞き「ホント」し酒もより、おいしく、たく  
さん飯めたというわけ下す。  
6月4日、小屋のおやしさんに夕べの交渉下一  
人2000円下魚津駅までマイクロバスを出して、ど  
う事が成立し 8:30 出発 → 魚津駅 9:45  
乗車下時向がある下「海へ行こう」と加藤さ  
んがこい出しアツク出かける。  
船着場の横は染に悩んでる。「あれはフル  
トン」で泳ぎ出したのは大笑。山男はこんな  
所があつたもい。  
「たたく」なま下よ下にくく、よけいな内容が  
多く記録としては参考になるないかもしれま  
せん。ぼくが書けはこうになる下す。  
記：大野 勝司

# 4度目 立山

真砂沢カール



タイム： $\frac{1}{2}$  室堂<sup>①</sup> 9:50 → 雷鳥沢<sup>②</sup> 10:15 / 25 → 稜線<sup>③</sup> 12:20 / 45 → 真砂沢出合<sup>④</sup> 13:30 / 50 → 剣御前小屋<sup>⑤</sup> 17:40  $\frac{1}{3}$  小屋<sup>⑥</sup> 8:30 → 雷鳥沢下部<sup>⑦</sup> 8:50 / 9:00 → 一の越<sup>⑧</sup> 10:35 / 45 → 2550m 登山道<sup>⑨</sup> 10:50 / 11:05 → 東一の越<sup>⑩</sup> 11:25 / 45 → 黒部平<sup>⑪</sup> 12:15 → ケブル&バス → 室堂<sup>⑫</sup> 13:10 / 25 → 室堂乗越<sup>⑬</sup> 14:25 / 50 → 毛勝谷出合<sup>⑭</sup> 15:25 / 35 → 菊石取水口<sup>⑮</sup> 16:45 / 17:00 → 馬場島荘<sup>⑯</sup> 17:30

最後の山スキーと銘うっての立山ももう4回目を迎えてしまった。ここ2年は天気に恵まれ爽快な滑降を楽しめた。しかし、近頃はいささか食傷気味になってしまった。室堂側の全ての斜面は衆人環視の中だし、黒部側の斜面はアルペンの景観の真只中で爽快な滑降を楽しめうれしいのだが、ここでの特徴として下るための登り、言い換えれば滑-その後登りかえしがあまりにつらい。

今回は小窓雪溪や池の平方面へも行こうと計画を立てたのだが、軽く断念してしまった。前日の真砂沢の滑降後の剣沢の登り返しで気力の限界を感じてしまったからだ。この剣沢の登り返しの苦痛は筆舌に尽しがたく、真砂沢や長次郎沢の出合あたりが限界に感じてしまう。とても二俣から登り返す気には今回はなれなかった。もっとも小窓雪溪を登り、大窓雪溪のデコレーション部分を楽しんで馬場島へ滑るならば話は別である。連休中なら可能とのことだった。

立山川は上部は傾斜もあり爽快の一言だ。本谷は幅が広く快適だった。ただ毛勝谷出合下のゴルジュはデブりのゴミが多く歩くハメになってしまい残念な気がした。

とはいえ、室堂へ下るのに比べ数倍の爽快感を感じることができた立山川滑降だった。また小屋の御主人は大日岳からのルートもおもしろいと語っていた。(菅沼)